

都倫研第3回読書会のご案内

平成25年6月3日
佐良土 茂

恒例となりました夏季研究協議会の第一部、読書会のご案内を致します。

1 日時 平成25年8月26日(月) 午後2時~

2 場所 東京都立立川高校

3 課題図書 ニーチェ著 『悲劇の誕生』

4 コメント等

ニーチェと言えば、何と言っても『ツアラトゥストラ』が有名です。また教科書には比較的後期の思想が載っていますが、ここではニーチェの思想的出発点となった『悲劇の誕生』を取り上げてみたいと思います。この書は直接的にはギリシア藝術・悲劇の起源と本質を扱ったのですが、当時彼が関心とするところは広く、ギリシアの精神・文化と人生との関係、人生における藝術の意義、あるいは人生における科学の意義や科学批判にまで及んでいます。ニーチェの思想の課題に、どうやって人生を肯定的なものとするのか、ということがあります。この視点は早くもこの最初の著書にも現れています。この書はニーチェの「自己批判」にもありますようにいくつかの難点を持っています。しかし、この書で展開された思想の多くは、その後のニーチェの思想にも一貫して流れています。そういう意味では、ニーチェの生涯の思想の種が、この書でまかれたとも言えます。問題をはらんだ書ですので、いろんな読み方があると思います。出来ればニーチェがこの書を改題したときに用いた「ギリシア精神とペシミズム」という線で読んでみたいと思っています。

5 テキスト案内

- ① 『悲劇の誕生』 西尾幹二訳 中公クラシックス 中央公論新社
世界の名著『ニーチェ』の中の『悲劇の誕生』も同訳者のもので、同じです。
私は上記の本でレポートしたいと考えています。
- ② 『悲劇の誕生』 秋山英夫訳 岩波文庫
この訳書には各節に内容を表す表題が付いています。元の書には付いていない
ものですが、各節の内容を知るには便利です。
- ③ 『ニーチェ全集第2巻』 塩谷竹男訳 理想社
この全集の廉価版がちくま学芸文庫にあります。
- ④ 『ニーチェ全集第1巻 第I期』 浅井真男訳 白水社